

第11回 白梅子ども学講座

日時：9月16日(土)・10月28日(土)・11月11日(土)

13:00～16:00 ※10月28日は14:30～17:00となります

会場：白梅学園大学

対象：保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、学童保育員、教育関係者の方

受講料：1回 2,000円 (全3回申込み 6,000円) ★受講料割引(10%割引) 適用講座

定員：各回100名(定員になり次第、締め切ります)

子ども学におけるメディア論 —子どもの発達と環境の視点から

◆9月16日(土) 13:00～16:00

「メディア漬けで壊れる子どもたち ～スマホ社会の落とし穴：その1～」

清川 輝基 特定非営利活動法人子どもとメディア代表理事

テレビが社会に登場して60年が経ち、今では、様々な情報を短時間で手に入れることができます。一方で、子ども達はメディアを欲し、更には追われる日々を過ごしています。メディア漬けで人間性を失ってしまう問題について話を聞きます。

◆10月28日(土) 14:30～17:00

「乳幼児の育ちに必要なこと ～スマホ社会の落とし穴：その2～」

内海 裕美 公益社団法人日本小児科医会常任理事(子どもとメディア委員会担当)

最近、泣き止まない子どもたちにスマホを渡して、あやしたり、子守をしたりしている場面に出会った体験はありませんか？メディアを視野に、乳幼児の育ちに必要なことを小児科医の立場から提言していただきます。

◆11月11日(土) 13:00～16:00

「児童・生徒・保護者への啓発授業 ～問題を共有し、取り組みの意欲を高めるには～」

成田 弘子 白梅学園大学非常勤講師

テレビ等のメディアが持つ意味や問題について、小学校現場と大学での体験を踏まえて、どう伝えればよいのか、実践的な視点から話をしてもらいます。

まとめ「大学としてソーシャルメディアの問題にどう対処するか」

安倍 大輔 白梅学園大学子ども学科准教授

ソーシャルメディアの問題は大学としても取り上げなければなりません。とりわけ卒業後に保育・教育・福祉の現場で働くことを目指している学生を養成している大学として、緊急の課題です。どう対応するのかその方向性について話をしてもらいます。